

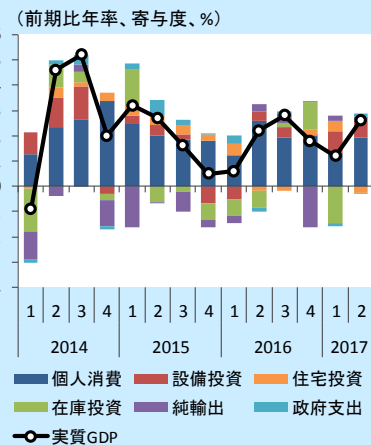
米国：実質GDP（2017年4-6月期、速報値） —GDP成長率は加速、設備投資・輸出の改善も持続—

MRI Daily Economic Points
August 1, 2017

図表1 実質GDP 図表2 実質GDPの項目別寄与度

(前期比年率、%)	2016			2017	
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
実質GDP	2.2	2.8	1.8	1.2	2.6
個人消費	3.8	2.8	2.9	1.9	2.8
設備投資	3.3	3.4	0.2	7.2	5.2
住宅投資	▲ 4.7	▲ 4.5	7.1	11.1	▲ 6.8
在庫投資 (寄与度)	▲ 0.7	0.2	1.1	▲ 1.5	▲ 0.0
政府支出	▲ 0.9	0.5	0.2	▲ 0.6	0.7
純輸出 (寄与度)	0.3	0.4	▲ 1.6	0.2	0.2
輸出	2.8	6.4	▲ 3.8	7.3	4.1
輸入 (控除)	0.4	2.7	8.1	4.3	2.1

出所：米国商務省



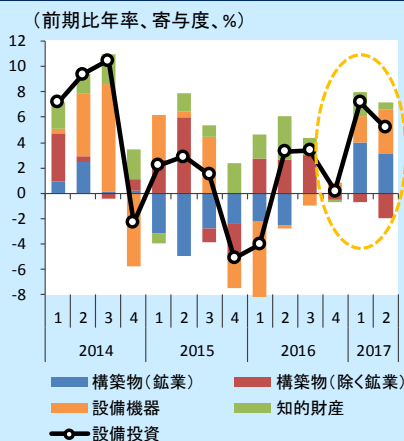
出所：米国商務省

評価ポイント

今回の結果

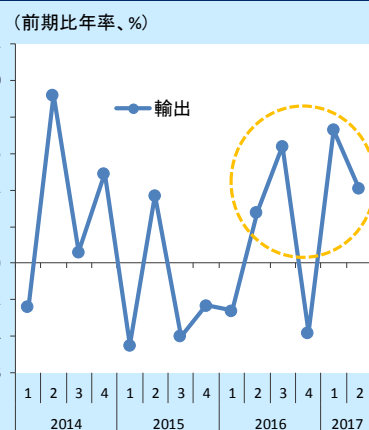
- 2017年4-6月期(速報値)の米国実質GDP成長率(前期比年率)は+2.6%と前期(同+1.2%)から伸びを高めた(図表1、2)。
- 4-6月期を詳しくみると、個人消費は、同+2.8%と前期(同+1.9%)から伸び率が上昇。新車販売台数が前年に比べ鈍る中、自動車関連消費は小幅ながらも2四半期連続で減少したが、①雇用・所得環境の改善、②高水準が続く消費者マインド、株高の資産効果を背景に、その他の消費は底堅い。消費性向も高水準を維持した。
- 設備投資は、同+5.2%と5四半期連続で増加。原油価格の安定化を背景に、鉱業関連の投資が2四半期連続で高い伸びとなり、全体を押し上げたほか、設備機器も伸び率が上昇した(図表3)。
- 輸出は、同+4.1%と2四半期連続で増加(図表4)。16年半ば以降、①海外経済の持ち直しや、②17年以降のドル高進行の一服を背景に、輸出は高い伸びが続いている。輸入の伸びを上回るペースで輸出が伸びたため、純輸出は+0.2%のプラス寄与となった。

図表3 設備投資の要因分解



出所：米国商務省

図表4 輸出



出所：米国商務省

基調判断と今後の流れ

- 米国経済は堅調な内需を背景に、緩やかな拡大が継続。振れが大きい在庫投資を除いた内需(=消費+設備投資+住宅投資+政府支出)の推移を見ると、16年半ば以降、前期比年率+2%台半ばで推移している。
- 先行きも消費主導による拡大傾向の維持を予想する。ただし、①プリーバス首席補佐官の突然の更迭にみられるようにトランプ政権内の混乱が続けば、不確実性の上昇や減税期待の剥落により、経済活動が抑制されかねない。
- また、②国境税導入の見送り決定が発表される中、オバマケア代替案も上院で可決できずに財源が確保できなければ、減税やインフラ投資の規模が縮小され、消費者マインドが後退して消費が減速する可能性がある。③新車販売台数の減少が続けば、悪影響が他産業の生産にも波及することも考えられる。